県内企業景況調査結果

[2022 年 10~12 月期実績、2023 年 1~3 月期見通し] 沖縄振興開発金融公庫 調査部発表

― 県内景況は、回復の動きにある ―

調査結果のポイント

1. 業況判断 D.I.

実績(10~12 月期):「好転」超幅がやや拡大し、3 期連続のプラス 〔前期 16.7%ポイント(以下、単位省略)⇒当期 18.8〕

・人手不足や原材料高等の影響あるも、観光需要の高まりにより 観光関連産業を中心に業況改善の動きが強まる

見通し(1~3月期):来期は「好転」超幅がやや拡大の見通し(来期20.9)

・人手不足や原材料高等の影響を引き続き懸念するも、 観光需要回復の動きは続くとみられ、プラス維持の見込み

2. 景況天気

製造業で「(睛れ)」 \rightarrow 「(薄曇り)」、

情報通信業で「 (薄曇り)」→「 (曇り)」

小売業、飲食店・宿泊業で引き続き「 🏠 (快晴)」

卸売業、運輸業、サービス業で引き続き「 (晴れ)」

建設業で引き続き「 (曇り)」

見通し:「☆ (晴れ)」となる見通し(来期 11.5)

小売業、飲食店・宿泊業で「 🌣 (快晴)」→「🌣 (晴れ)」

情報通信業で「 (曇り)」→「 (薄曇り)」

卸売業、運輸業、サービス業で引き続き「****(晴れ)」

製造業で引き続き「(ブ)(薄曇り)」、建設業で引き続き「(一)(曇り)」

3. 売上 D.I.

実績 :「増加」超幅がやや縮小(同 28.4⇒同 24.5)

見通し:「増加」超幅がほぼ横這い(同25.8)

4. 採算水準 D.I.

実績 :「黒字」超幅がやや縮小(同 17.3⇒同 14.8)

見通し:「黒字」超幅がやや縮小(同12.1)

5. 資金繰り D.I.

実績 :「楽」超から「苦しい」超へ転じる(同3.0⇒同△3.0)

見通し:「苦しい」超幅がほぼ横這い(同△3.3)

沖縄振興開発金融公庫 調査部

[調査内容についてのお問い合わせ先] 調査部 金融経済調査課(担当: 國吉)

調食部 金融経済調食課 (担当・図古) 沖縄県那覇市おもろまち 1-2-26

電話:070-7893-6568 FAX:098-941-1920

I. 調查要領

1. 調査目的

本調査は、県内における企業の景況を把握し、企業経営のための情報を提供することを目的とする。

2. 調査対象

沖縄県内に本社のある法人企業のうち、原則として資本金1千万円以上かつ従業員数20名以上の企業を対象とする。

3. 調査対象企業数及び回答状況

		項目	調査対象企業数	回答数	回答率(%)
業種			(A)	(B)	$(B)/(A) \times 100$
-	全産	業	375	330	88. 0
	製 造 業		68	61	89. 7
	建設業		68	64	94. 1
	卸 売 業		48	46	95.8
	小 売 業		48	40	83. 3
	運輸業		36	31	86. 1
	情報通信業		23	19	82. 6
	サービス業		46	39	84.8
	飲食店・宿泊	白業	35	27	77. 1

※全産業には電力・ガス、不動産業が含まれるため、各業種合計と全産業の値は一致しない。

4. 調査方法

対象企業に調査票を郵送し、自計記入を求める方法による。

5. 調查対象期間

当期 … 2022 年 10~12 月期実績 来期 … 2023 年 1~3 月期見通し

6. 調査実施期間

2022年11月下旬~2022年12月下旬

(発送: 2022年11月18日、回収基準日: 2022年12月2日)

7. 用語説明等

- (1) 本調査は、原則として前年同期との比較による調査であるが、採算水準、在庫水準、雇用判断については当該期に関する質問となっている。
- (2) D. I. (Diffusion Index) とは、質問に対しプラス、中立、マイナスの3つの選択肢を用意し、このうちプラスと答えた企業の割合から、マイナスと答えた企業の割合を差し引いたものである。
- (3) 景況天気については、売上、採算水準、資金繰り D. I. を平均し、その値を 5 段階に区分して判定している。

Ⅱ. 調査結果

1. 業況判断

─ 当期は「好転」超幅がやや拡大し、3 期連続のプラス来期は「好転」超幅がやや拡大の見通し ─

(1) [2022年10~12月期実績]

自社の業況を総合的に判断する業況判断D. I. は、18.8%ポイント(以下、単位省略)と、「好転」超幅がやや拡大となった。

業種別にみると、飲食店・宿泊業で「好転」超幅が縮小、卸売業で「好転」超幅がや や縮小、建設業、情報通信業で「悪化」超幅がほぼ横這いとなったものの、製造業で「保 合い」から「好転」超となり、サービス業で「好転」超幅が拡大、運輸業で「好転」超 幅がやや拡大、小売業で「好転」超幅がほぼ横這いとなった。

(2) [2023年1~3月期見通し]

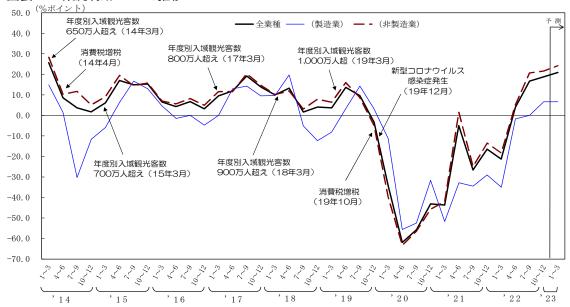
来期の業況判断D. I. は 20.9 と、「好転」超幅がやや拡大の見通しとなっている。 業種別にみると、サービス業、飲食店・宿泊業で「好転」超幅が縮小、小売業で「好 転」超幅がやや縮小となるものの、卸売業、運輸業で「好転」超幅が拡大、情報通信業 で「悪化」超から「保合い」となり、建設業で「悪化」超幅が縮小、製造業で「好転」 超幅が横這いの見通しとなっている。

図表1-1. 業況判断D.I.

参考: 業況判断D. I. (前年同期比、	「好転」-「悪化」企業割合)	(単位 : %ポイント)

	区分	202	1年			2022年			2023年
		7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~1	2月期	1~3月期
業種		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D. I (①—②)	△ 26.6	△ 16.4	△ 21.3	4.0	16. 7	(11.9)	18.8	20.9
	① 好転(%)	15. 1	18.8	15.0	29.9	35. 5	(30. 1)	40.3	38. 8
	不変(%)	43. 2	46. 1	48.6	44. 2	45. 7	(51. 6)	38. 2	43. 3
	② 悪化(%)	41.7	35. 1	36. 3	25. 9	18.8	(18. 2)	21. 5	17. 9
製	造 業	△ 34.5	△ 29.0	△ 35.0	△ 1.7	0.0	(△10.9)	6.6	6.6
建	設 業	△ 25.0	△ 21.0	△ 24.6	△ 27.9	△ 18.0	(△13. 1)	△ 18.8	△ 9.4
卸	売 業	△ 29.3	△ 25.6	△ 29.5	△ 17.1	28. 3	(21.7)	26. 1	34.8
小	売 業	△ 40.5	△ 7.5	△ 20.5	12.8	34. 1	(24.4)	35. 0	30.0
運	輸業	△ 26.5	△ 5.9	△ 21.9	27. 3	32. 3	(35.5)	35. 5	41.9
情報	報通信業	9.5	19.0	△ 5.0	△ 9.5	△ 9.5	(△4.8)	△ 10.5	0.0
サー	ービス業	△ 7.1	△ 9.8	△ 16.3	9.8	24. 4	(19.5)	33. 3	25.6
飲1	食店・宿泊業	△ 48.1	△ 23.3	0.0	72. 4	81. 5	(63.0)	74. 1	66.7

図表1-2. 業況判断 D. I.の推移



2. 景況天気

― 当期は2期連続の「晴れ」、来期も「晴れ」の見通し ―

(1) [2022年10~12月期実績]

当期の県内企業の動向を全産業ベースでみると、資金繰り D. I. $(3.0 \rightarrow \triangle 3.0)$ で「楽」 超から「苦しい」超へ転じ、売上D. I. $(28.4 \rightarrow 24.5)$ で「増加」超幅がやや縮小、採算水準D. I. $(17.3 \rightarrow 14.8)$ で「黒字」超幅がやや縮小したことから、景況天気(16.2 $\rightarrow 12.1$)は「晴れ」となった。

業種別にみると、製造業で「晴れ」から「薄曇り」、情報通信業で「薄曇り」から「曇り」となったものの、小売業、飲食店・宿泊業で引き続き「快晴」、卸売業、運輸業、サービス業で引き続き「晴れ」、建設業で引き続き「曇り」となった。

(2) [2023年1~3月期見通し]

来期の見通しは、採算水準D. I. (12.1) で「黒字」超幅がやや縮小、資金繰りD. I. $(\Delta 3.3)$ で「苦しい」超幅がほぼ横這い、売上D. I. (25.8) で「増加」超幅がほぼ横這いとなることから、景況天気 (11.5) は「晴れ」の見通しとなっている。

業種別にみると、小売業、飲食店・宿泊業で「快晴」から「晴れ」となるものの、情報通信業で「曇り」から「薄曇り」となり、卸売業、運輸業、サービス業で引き続き「晴れ」、製造業で引き続き「薄曇り」、建設業で引き続き「曇り」の見通しとなっている。

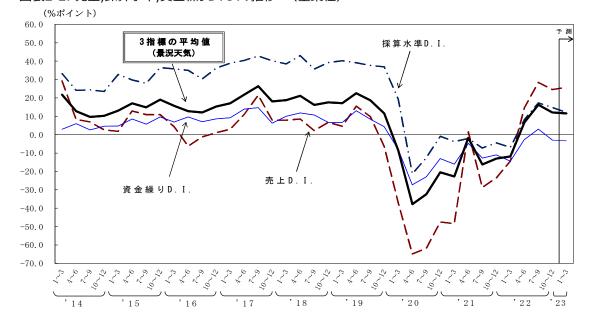
図表2-1. 景況天気図

参考: 景況天気 (売上、採算水準、資金繰りD. I. の平均値)

(単位: %ポイント)

	<i>-</i> 八	202	21年			2022年		2023年
業種	☑分 -	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期
未性	\	実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し 今回実績	今回見通し
全産業	1	$m{\circ}_{\triangle 16.2}$	<u></u> △13.0	∽ △11.9	6.7	☆ 16.2	(11. 3) (12.	1 3 11.5
製 造 業	•	△ △25. 9	○ △21. 5	○ △19. 4	O 5.0	☆ 12.0	\bigcirc (2.1) \bigcirc \triangle 1.1	2.7
建設業	•	∽ △6.8	○ △8.1	○ △1.1	<u></u> △6.0	○ △ 7.1	\bigcirc _($\triangle 5.5$) \bigcirc _{$\triangle 10.9$}	
卸売業	1	\bigcirc $\triangle 4.1$	○ △5.4	O 1.5		24. 6	(23. 2) (23. 18. 18. 18. 18. 18. 18. 18. 18. 18. 18	24.6
小 売 業	•	○ △24. 6	○ △9. 2	∽ △17. 1	o 6.8	☆ 32.5	☼ (26. 8) ३ 36.	7 28.3
運輸業	•	∽ △18. 6	○ △9.8	$m{\circ}_{\triangle 26.0}$		sha.	NAC NAC	NA.
情報通信業	•	$\circ_{\triangle 3.2}$	O 3.2	\circ $_{\triangle 1.7}$	\circ $\triangle 3.2$	$\circ_{\triangle 1.6}$	$\bigcirc_{(\triangle 1.6)}$ $\bigcirc_{\triangle 10.5}$	5 ○ △ 3.5
サービス業	1	\bigcirc $\triangle 4.0$	∽ △13.8	$lefta_{\triangle 16.3}$	☼ 15.4	☆ 23.6	(13.8) D 23.	9 🗱 18.8
飲食店・宿泊業	É	↑ △53. 1	↑ △38.9	○ △20.8	2 12.6	☆ 34.6		5 D 17.3
☆ 快晴 — 曇り —		30以上~ 100년 30以上~△ 55		雨 — _	10以上~ 3 △100以上~△3	0未満 0未満	● 薄曇り ― △ 5以」	上~ 10未満

図表2-2. 売上,採算水準,資金繰りD. I .の推移 (全業種)



3. 売上

― 当期は「増加」超幅がやや縮小、

来期は「増加」超幅がほぼ横這いとなる見通し —

(1) [2022年10~12月期実績]

当期の売上D. I.は24.5と、「増加」超幅がやや縮小となった。

業種別にみると、小売業で「増加」超幅が拡大、建設業で「減少」超幅が縮小、サービス業で「増加」超幅がほぼ横這いとなったものの、情報通信業で「増加」超から「保合い」となり、製造業、運輸業、飲食店・宿泊業で「増加」超幅が大幅に縮小、卸売業で「増加」超幅がやや縮小となった。

(2) [2023年1~3月期見通し]

来期の売上D. I. は 25.8 と、「増加」超幅がほぼ横這いとなる見通しとなっている。 業種別にみると、情報通信業で「保合い」から「減少」超となり、建設業で「減少」 超幅がやや拡大、飲食店・宿泊業で「増加」超幅が大幅に縮小となるものの、製造業、 卸売業、運輸業で「増加」超幅が拡大、小売業で「増加」超幅がやや拡大、サービス業 で「増加」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

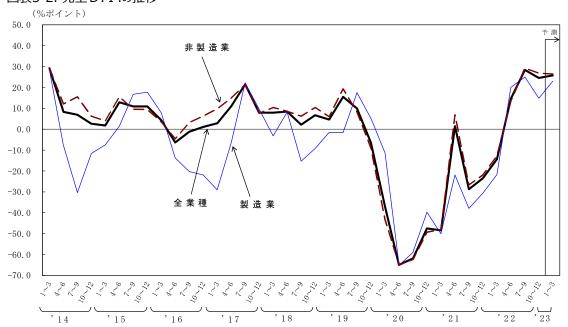
図表3-1. 売上D.I.

参考:売上D. I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位: %ポイント)

$\overline{}$	_	区分	202	1年			2022年			2023年
		\	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~1	2月期	1~3月期
当	業種		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全	全産業 D. I (①—②)		△ 28.7	△ 23.5	△ 14.4	14. 6	28. 4	(25. 1)	24. 5	25.8
		① 増加(%)	22.4	25. 0	27.0	43. 9	52. 2	(44. 8)	49.7	46. 1
		不変(%)	26.6	26. 5	31. 5	26.8	23. 9	(35. 5)	25. 2	33. 6
		② 減少(%)	51.1	48. 5	41. 4	29. 3	23. 9	(19.7)	25. 2	20. 3
	製	告 業	△ 37.9	△ 30.6	△ 21.7	20.0	25. 0	(4.7)	14.8	23. 0
	建調	没 業	△ 31.3	△ 41.9	△ 24.6	△ 37.7	△ 27.9	(△18.0)	△ 21.9	△ 25.0
	卸う	売 業	△ 31.7	△ 23.3	2.3	7. 3	30. 4	(37. 0)	28. 3	34.8
	小身	売 業	△ 40.5	△ 20.0	△ 23.1	10. 3	41. 5	(36. 6)	47. 5	50.0
	運	輸 業	△ 17.6	5.9	△ 15.6	36. 4	51.6	(67. 7)	38. 7	48.4
	情報)	通信業	△ 4.8	0.0	△ 25.0	4.8	14. 3	(0.0)	0.0	△ 5.3
	サート	ビス業	△ 2.4	△ 26.8	△ 14.0	36. 6	43. 9	(39. 0)	43.6	43. 6
	飲食后	吉・宿泊業	△ 59.3	△ 23.3	9.4	79. 3	96. 3	(77. 8)	85. 2	66. 7

図表3-2. 売上D. I.の推移



4. 採算水準

― 当期は「黒字」超幅がやや縮小、来期は「黒字」超幅がやや縮小の見通し ―

(1) [2022年10~12月期実績]

当期の採算水準D. I. は 14.8 と、「黒字」超幅がやや縮小となった。

業種別にみると、飲食店・宿泊業で「赤字」超から「黒字」超に転じ、小売業で「黒字」超幅が大幅に拡大、サービス業で「黒字」超幅が拡大となったものの、建設業で「黒字」超から「赤字」超へ転じ、情報通信業で「赤字」超幅が拡大、製造業で「黒字」超幅が大幅に縮小、卸売業、運輸業で「黒字」超幅が縮小となった。

(2) [2023年1~3月期見通し]

来期の採算水準D. I. は12.1 と、「黒字」超幅がやや縮小の見通しとなっている。 業種別にみると、建設業、情報通信業で「赤字」超から「黒字」超に転じ、卸売業で「黒字」超幅が大幅に拡大となるものの、製造業、飲食店・宿泊業で「黒字」超から「赤字」超へ転じ、小売業、サービス業で「黒字」超幅が大幅に縮小、運輸業で「黒字」超幅がやや縮小の見通しとなっている。

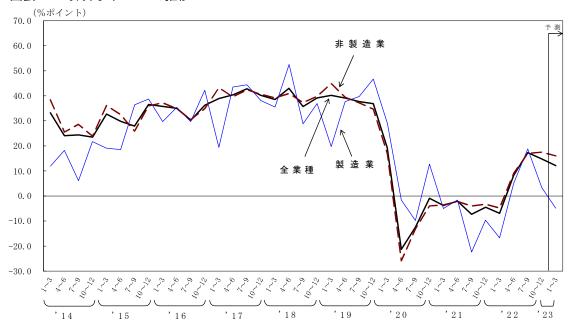
図表4-1. 採算水準D.I.

参考:採算水準D. I. (**当該期**、「黒字」-「赤字」企業割合)

(単位: %ポイント)

少芍·水芽水中b.1.(国政为 、「荒丁」「亦丁」正未的日)										
区分	202	21年			2022年			2023年		
	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~1	2月期	1~3月期		
ı İ	実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し		
業 D. I (①—②)	△ 7.3	△ 4.5	△ 6.9	8. 2	17. 3	(12. 2)	14. 8	12. 1		
① 黒字(%)	27. 8	29. 2	29. 4	33. 5	39. 7	(32. 2)	37. 6	33. 3		
トントン (%)	37. 2	37. 2	34. 2	41. 2	37. 9	(47.8)	39. 7	45. 5		
② 赤字(%)	35. 0	33. 6	36. 3	25. 3	22. 4	(20.0)	22. 7	21. 2		
製 造 業	△ 22.4	△ 9.7	△ 16.7	5.0	18.8	(6.3)	3. 3	△ 4.9		
建 設 業	17. 2	16. 1	23.0	23. 0	8. 2	(8.2)	△ 1.6	9. 4		
即 売 業	19. 5	14. 0	13.6	26.8	45. 7	(41.3)	39. 1	50.0		
小 売 業	△ 14.3	5. 0	△ 10.3	7. 7	31. 7	(29.3)	47. 5	30.0		
重 輸 業	△ 20.6	△ 26.5	△ 34.4	15. 2	12. 9	(22.6)	6. 5	3. 2		
青報通信業	4.8	14. 3	35. 0	0.0	△ 9.5	(0.0)	△ 15.8	10. 5		
ナービス業	△ 2.4	△ 12.2	△ 20.9	4. 9	17. 1	(4.9)	23. 1	12.8		
次食店・宿泊業	△ 66.7	△ 60.0	△ 56.3	△ 44.8	△ 14.8	(△37.0)	3. 7	△ 29.6		
	区分 業 D. I (①-②) ① 黒字(%) トンドン(%) ② 赤字(%) 建 業 書 設 業 計 売 業 下 売 業 手 輸 業 青報通信業 ナービス業	区分 202 7~9月期 実績 業 D. I (①一②) △ 7. 3 ① 黒字(%) 27. 8 トントン(%) 37. 2 ② 赤字(%) 35. 0 以 造 業 △ 22. 4 建 設 業 17. 2 申 売 業 19. 5 ト 売 業 △ 14. 3 軍 輸 業 △ 20. 6 青報通信業 4. 8 ナービス業 △ 2. 4	区分 2021年	区分 2021年	区分 2021年	区分 2021年 2022年 7~9月期 10~12月期 1~3月期 4~6月期 7~9月期 実績 実績 実績 実績 実績 前回実績 前回実績 東積 東積 東積 東積 東積 東積 東積 東	区分 2021年 2022年	区分 2021年 2022年 7~9月期 10~12月期 1~3月期 4~6月期 7~9月期 10~12月期 実績 実績 実績 実績 前回実績 前回見通し 今回実績 前回見係 17~9月期 10~12月期 1~3月期 東稿 実績 実績 前回実績 前回見通し 今回実績 第 D.I (①一②) △ 7.3 △ 4.5 △ 6.9 8.2 17.3 (12.2) 14.8 ② 黒字(粉) 27.8 29.2 29.4 33.5 39.7 (32.2) 37.6 ○○○(粉) 37.2 37.2 34.2 41.2 37.9 (47.8) 39.7 ② 赤字(粉) 35.0 33.6 36.3 25.3 22.4 (20.0) 22.7 段 達 業 △ 22.4 △ 9.7 △ 16.7 5.0 18.8 (6.3) 3.3 建設業 17.2 16.1 23.0 23.0 8.2 (8.2) △ 1.6 即元業 19.5 14.0 13.6 26.8 45.7 (41.3) 39.1 小元業 △ 20.6 △ 26.5 △ 34.4 15.2 12.9 (22.6) 6.5 青報通信業 4.8 14.3 35.0 0.0 △ 9.5 (0.0) △ 15.8 十一ビス業 △ 2.4 △ 12.2 △ 20.9 4.9 17.1 (4.9) 23.1		

図表4-2. 採算水準 D. I.の推移



5-1. 資金繰り

— 当期は「楽」超から「苦しい」超へ転じ、 来期は「苦しい」超幅がほぼ横這いの見通し —

(1) [2022年10~12月期実績]

当期の資金繰りD. I. は△3.0 と、「楽」超から「苦しい」超へ転じた。

業種別にみると、運輸業で「苦しい」超から「楽」超に転じ、飲食店・宿泊業で「楽」 超幅が拡大したものの、製造業で「苦しい」超幅が大幅に拡大、建設業、卸売業、情報 通信業で「苦しい」超幅が拡大、小売業で「楽」超幅が縮小、サービス業で「楽」超幅 がやや縮小となった。

(2) [2023年1~3月期見通し]

来期の資金繰り D. I. は \triangle 3.3 と、「苦しい」 超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

業種別にみると、製造業で「苦しい」超幅が大幅に縮小、建設業で「苦しい」超幅が やや縮小、運輸業で「楽」超幅が横這いとなるものの、サービス業で「楽」超から「保 合い」となり、小売業、飲食店・宿泊業で「楽」超幅が大幅に縮小、卸売業、情報通信 業で「苦しい」超幅が横這いの見通しとなっている。

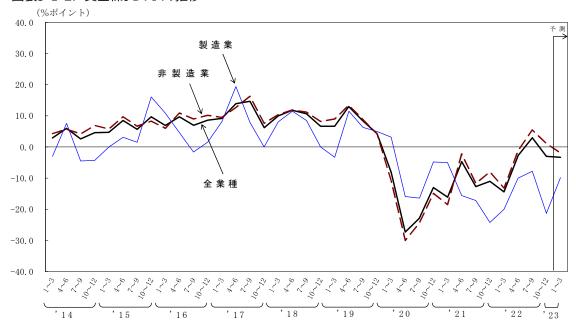
図表5-1-1. 資金繰りD.I.

参考:資金繰りD.I. (前年同期比、「楽」-「苦しい」企業割合)

(単位: %ポイント)

区分	202	1年			2022年			2023年
	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~1	2月期	1~3月期
業種	実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D. I (①—②)	△ 12.7	△ 11.0	△ 14.4	△ 2.7	3.0	(△3.3)	△ 3.0	△ 3.3
① 楽 (%)	4.2	6.0	3.3	6.7	13. 1	(8.4)	9.4	7. 3
不 変 (%)	78. 9	77. 1	79. 0	83.8	76. 7	(80.0)	78. 2	82. 1
② 苦しい(%)	16. 9	17.0	17. 7	9. 5	10. 1	(11.6)	12.4	10.6
製 造 業	△ 17.2	△ 24.2	△ 20.0	△ 10.0	△ 7.8	(△4.7)	△ 21.3	△ 9.8
建設業	△ 6.3	1.6	△ 1.6	△ 3.3	△ 1.6	(△6.6)	△ 9.4	△ 6.3
卸売業	0.0	△ 7.0	△ 11.4	△ 2.4	△ 2.2	(△8.7)	△ 10.9	△ 10.9
小 売 業	△ 19.0	△ 12.5	△ 17.9	2.6	24.4	(14.6)	15. 0	5.0
運輸業	△ 17.6	△ 8.8	△ 28.1	△ 3.0	△ 3.2	(△9.7)	3. 2	3. 2
情報通信業	△ 9.5	△ 4.8	△ 15.0	△ 14.3	△ 9.5	(△4.8)	△ 15.8	△ 15.8
サービス業	△ 7.1	△ 2.4	△ 14.0	4.9	9.8	(△2.4)	5. 1	0.0
飲食店・宿泊業	△ 33.3	△ 33.3	△ 15.6	3.4	22.2	(△3.7)	29. 6	14.8

図表5-1-2. 資金繰りD.I.の推移



5-2. 借入難易

当期は「容易」超から「保合い」となり、来期は「保合い」から「困難」超となる見通し

(1) [2022年10~12月期実績]

当期の民間金融機関からの借入難易D. I. は0.0 と、「容易」超から「保合い」となった。業種別にみると、建設業で「困難」超から「容易」超に転じ、情報通信業で「保合い」から「容易」超となり、飲食店・宿泊業で「困難」超幅がやや縮小、卸売業で「容易」超幅が横這いとなったものの、製造業、運輸業で「容易」超から「困難」超へ転じ、サービス業で「保合い」から「困難」超となり、小売業で「容易」超から「保合い」となった。

(2) [2023年1~3月期見通し]

来期の借入難易D.I.は $\triangle 1.2$ と、「保合い」から「困難」超となる見通しとなっている。

業種別にみると、運輸業で「困難」超から「保合い」となり、卸売業、情報通信業で「容易」超幅が横這いとなるものの、小売業で「保合い」から「困難」超となり、製造業、サービス業で「困難」超幅がやや拡大、建設業で「容易」超から「保合い」となり、飲食店・宿泊業で「困難」超幅が横這いの見通しとなっている。

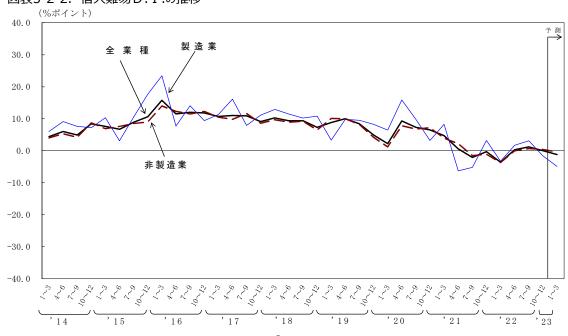
図表5-2-1. 借入難易D.I.

参考:借入難易D. I. (前年同期比、「容易」-「困難」企業割合)

(単位 : %ポイント)

	区分	202	11年			2022年			2023年
		7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~1	2月期	1~3月期
業種		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D. I (①—②)	△ 2.1	△ 0.3	△ 3.6	0.3	1. 2	(△0.6)	0.0	△ 1.2
	① 容易(%)	4. 5	5. 1	3. 3	4.9	4.8	(4.5)	4.5	4. 2
	不変(%)	88.8	89.6	89.8	90.5	91.6	(90.4)	90.9	90.3
	② 困難(%)	6. 6	5.4	6.9	4.6	3.6	(5.1)	4.5	5. 5
製	造 業	△ 5.2	3. 2	△ 3.3	1.7	3. 1	(△1.6)	△ 1.6	△ 4.9
建	設 業	1. 6	0.0	△ 1.6	3.3	△ 1.6	(△1.6)	1.6	0.0
卸	売 業	△ 2.4	2.3	4. 5	0.0	6. 5	(0.0)	6. 5	6. 5
小	売 業	△ 2.4	△ 5.0	△ 7.7	0.0	4. 9	(2.4)	0.0	△ 2.5
運	輸業	△ 2.9	△ 2.9	0.0	6. 1	3. 2	(3. 2)	△ 3.2	0.0
情	報通信業	9. 5	4.8	0.0	△ 4.8	0.0	(4.8)	5. 3	5. 3
サ	ービス業	0.0	0.0	△ 7.0	△ 2.4	0.0	(0.0)	△ 2.6	△ 5.1
飲	食店・宿泊業	△ 14.8	△ 6.7	△ 15.6	△ 6.9	△ 11.1	(△11.1)	△ 7.4	△ 7.4

図表5-2-2. 借入難易 D. I.の推移



Ⅲ. 参考

参考 1. 販売数量 (製造業・卸売業・小売業のみ)

― 当期は「増加」超幅がやや縮小、来期は「増加」超幅がやや拡大の見通し ―

(1) [2022年10~12月期実績]

当期の販売数量D. I. は 10.2 と「増加」超幅がやや縮小となった。 業種別にみると、小売業で「増加」超幅が大幅に拡大したものの、製造業で「減少」 超幅が拡大、卸売業で「増加」超幅が大幅に縮小となった。

(2) [2023年1~3月期見通し]

来期の販売数量D. I. は 15.0 と、「増加」超幅がやや拡大の見通しとなっている。 業種別にみると、卸売業で「増加」超幅が拡大、製造業で「減少」超幅が縮小、小売 業で「増加」超幅が横這いの見通しとなっている。

表1. 販売数量D.I.

参考: 販売数量D. I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位: %ポイント)

		区分	202	1年			2022年			2023年
			7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期		1~3月期
3	業種		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全	産業	D. I (①—②)	△ 42.6	△ 30.3	△ 26.6	1.4	12.6	(4. 6)	10. 2	15.0
		① 増加(%)	15.6	21.4	21.7	36.4	41. 1	(33. 8)	44. 2	38.8
		不変(%)	26. 2	26. 9	30. 1	28.6	29.8	(36. 4)	21.8	37. 4
l _		② 減少(%)	58. 2	51.7	48.3	35.0	28. 5	(29. 1)	34.0	23.8
		製 造 業	△ 44.8	△ 37.1	△ 30.0	6. 7	△ 3.1	(△17. 2)	△ 8.2	△ 1.6
		卸 売 業	△ 36.6	△ 34.9	△ 27.3	△ 14.6	17. 4	(13. 0)	6. 5	13. 0
		小 売 業	△ 45.2	△ 15.0	△ 20.5	10. 3	31. 7	(29. 3)	42. 5	42. 5

参考 2. 販売価格 (製造業・卸売業・小売業のみ)

― 当期は「上昇」超幅がやや縮小、来期は「上昇」超幅がほぼ横這いの見通し ―

(1) [2022年10~12月期実績]

当期の販売価格 D. I. は 67.3 と、「上昇」超幅がやや縮小となった。 業種別にみると、小売業で「上昇」超幅が縮小、卸売業で「上昇」超幅がやや縮小、 製造業で「上昇」超幅が横這いとなった。

(2) [2023年1~3月期見通し]

来期の販売価格D. I. は 66.7 と、「上昇」 超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。 業種別にみると、製造業、小売業で「上昇」 超幅がやや縮小となるものの、卸売業で 「上昇」 超幅が拡大の見通しとなっている。

表2. 販売価格D.I.

参考:販売価格D. I. (前年同期比、「上昇」-「下降」企業割合)

(単位: %ポイント)

	区分	202	1年			2023年			
		7~9月期	10~12月期	1~3月期	1~3月期 4~6月期 7~9月期		10~12月期		1~3月期
業租		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	₿ D. I (①—②)	10.6	26. 2	39. 9	60.0	70. 9	(72. 2)	67.3	66. 7
	① 上昇(%)	19.9	31.0	44. 1	60.7	72.8	(76. 2)	70.7	69. 4
	不変(%)	70.9	64.1	51.7	38.6	24. 5	(19. 2)	25.9	27. 9
	② 下降(%)	9.2	4.8	4. 2	0.7	2.0	(4.0)	3.4	2. 7
	製 造 業	8.6	19.4	35.0	53. 3	67.2	(68.8)	67.2	62. 3
	卸 売 業	19.5	44.2	52.3	63.4	71. 7	(76. 1)	67.4	73. 9
	小 売 業	4.8	17.5	33. 3	66. 7	75. 6	(73. 2)	67. 5	65. 0

参考 3. 在庫水準(製造業・卸売業・小売業のみ)

— 「過剰」超から「保合い」となる —

〔2022年12月期末〕

在庫水準D. I. は 0.0 と、前期末と比べて「過剰」超から「保合い」となった。 業種別にみると、小売業で「過剰」超から「不足」超に転じ、製造業で「過剰」超 から「保合い」となり、卸売業で「過剰」超幅がやや縮小となった。

表3. 在庫水準D.I.

参考:在庫水準D. I. (**当該期末の水準**、「不足」-「過剰」企業割合) (単位: %ポイント)

		多 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(- 100,000,000,000,000,000,000,000,000,000	1 1—	透析] 正水百百	,	(1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-	(十四: 704:14 17			
		区分	202	1年		2022年					
	業種		9月期末	12月期末	3月期末	6月期末	9月期末	12月期末			
全	産業	D. I (①—②)	△ 13.5	△ 8.3	△ 9.8	△ 2.9	△ 5.3	0.0			
		① 不足(%)	2.8	7. 6	4. 2	6. 4	7. 3	10. 2			
		適正(%)	80. 9	76. 6	81.8	84. 3	79. 5	79. 6			
		② 過剰(%)	16. 3	15. 9	14. 0	9. 3	12. 6	10. 2			
		製 造 業	△ 17.2	△ 11.3	△ 10.0	△ 3.3	△ 1.6	0.0			
		卸 売 業	△ 7.3	△ 2.3	△ 11.4	2. 4	△ 13.0	△ 10.9			
		小 売 業	△ 14.3	△ 10.0	△ 7.7	△ 7.7	△ 2.4	12. 5			

参考 4. 雇用判断

一 当期は「不足」超幅が拡大、来期は「不足」超幅がやや拡大の見通し 一

(1) [2022年10~12月期実績]

当期の雇用判断D. I. は 47.3 と、「不足」超幅が拡大となった。

業種別にみると、卸売業で「不足」超幅が縮小となったものの、小売業、運輸業、飲食店・宿泊業で「不足」超幅が大幅に拡大、建設業、サービス業で「不足」超幅が拡大、製造業で「不足」超幅がやや拡大、情報通信業で「不足」超幅がほぼ横這いとなった。

(2) [2023年1~3月期見通し]

来期の雇用判断 D. I. は 49.7 と、「不足」超幅がやや拡大の見通しとなっている。 業種別にみると、製造業、運輸業で「不足」超幅がやや縮小となるものの、卸売業で 「不足」超幅が大幅に拡大、情報通信業で「不足」超幅が拡大、建設業、サービス業、 飲食店・宿泊業で「不足」超幅がやや拡大、小売業で「不足」超幅が横這いの見通しと なっている。

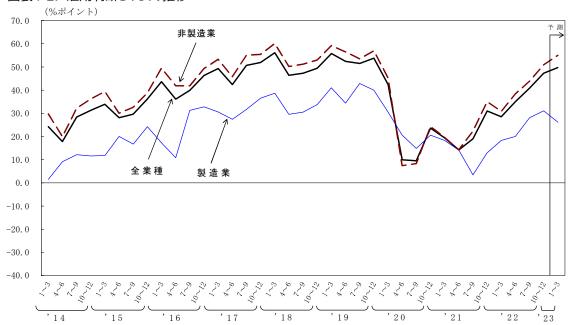
図表4-1. 雇用判断D.I.

参考:雇用判断D. I. (**当該期**、「不足」-「過剰」企業割合)

(単位: %ポイント)

	参与・推用刊例D.1. (国政 物、「小足」「週刊」正未計日) (平位・/0小・									
		区分	202	1年			2022年			2023年
			7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~1	10~12月期	
	業種		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全	産業	D. I (①—②)	19.0	31. 0	28. 5	35. 1	40. 9	(43.0)	47. 3	49. 7
		① 不足(%)	29. 0	36. 6	36. 0	39.0	43. 9	(44.8)	48.8	50.3
		適正(%)	61.0	57. 7	56. 5	57.0	53. 1	(53.4)	49.7	49. 1
		② 過剰(%)	10.0	5. 7	7. 5	4.0	3.0	(1.8)	1.5	0.6
	製	造 業	3. 4	12. 9	18. 3	20.0	28. 1	(29.7)	31. 1	26. 2
	建	設 業	43.8	46.8	47.5	39.3	42.6	(52.5)	51.6	56. 3
	卸	売 業	17. 1	27. 9	25.0	36.6	39. 1	(41.3)	30. 4	43. 5
	小	売 業	11.9	25. 0	17. 9	30.8	41.5	(41.5)	55.0	55.0
	運	輸業	11.8	32. 4	12.5	39.4	38. 7	(45. 2)	58. 1	54.8
	情幸	服通信業	33. 3	33. 3	40.0	23.8	33. 3	(28.6)	31.6	36.8
	サー	-ビス業	23.8	34. 1	37. 2	46.3	53. 7	(56. 1)	59.0	61.5
	飲食	食店・宿泊業	0.0	40.0	25. 0	48.3	59. 3	(51.9)	77.8	81. 5

図表4-2. 雇用判断 D. I.の推移



参考 5. 経営上の問題点

- 3期連続「原材料高」が最多となる -

[2022年10~12月期実績]

当面の経営上の問題点としては、3 期連続「原材料高」(図表 5-1 の表頭④24.1%)の割合が最も高く、続いて「求人難」(同⑩17.5%)、「利益の減少」(同③14.5%)の順となった。業種別にみると、製造業、建設業、卸売業、小売業、飲食店・宿泊業では「原材料高」の割合が、運輸業、サービス業では「求人難」の割合が最も高かった。また、情報通信業では

図表5-1.経営上の問題点(複数回答)

(単位: %) (4) (8) (9) (10) (11) 区分 (I) (6) (7) 》 人件費以外 経費の増加 設備・店舗 の狭小等 人件費 の増加 代金 利益の 減少 製品安等 原材料高 借入難 余剰人員 求人難 事業承継 その他 可収難 業 全 産 14.4 14.5 17.5 製造業 31.7 2.4 11.0 0.0 0.0 12.2 6.7 0.0 2.4 14.0 0.6 18.3 0.6 20.5 0.0 16.9 23.5 9.0 4.2 0.6 0.6 0.0 18.1 3.0 1.8 1.8 卸売業 0.9 15.7 27.8 11.3 0.0 0.9 0.0 15.7 4.3 0.9 10.4 小 売 業 10.8 1.0 11.8 23.5 7.8 8.8 1.0 1.0 0.0 17.6 9.8 2.0 4.9 7.7 6.4 0.0 10.3 1.3 運輸 業 0.0 15.4 19.2 0.0 0.0 20.5 2.6 16.7 情報通信業 0.0 0.0 0.0 21.7 15.2 8.7 0.0 4.3 21.78.7 15.2 18.6 1.0 0.0 20.6 8.2 2.1 13.4 11.3 1.0 13.4 6.2 飲食店·宿泊業 8.0 8.0 26.7 12.0 25.3

図表5-2. 経営上の問題点(複数回答)

「売上の不振」と「利益の減少」が同率で最も高かった。

